あすなろ保育園 令和3年度事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

【一年間の総括】

社会福祉法人福島愛育園が運営する保育施設として、「全国保育士倫理綱領・保育所保育指針・幼稚園教育要領」を基盤に、創始者の精神を継承・遵守し、自園の事業計画に基づき保育を展開した。

最大の難局「コロナ禍」の中で、子どもの最善の幸せのためにどのような保育を展開するか、安心・安全を最優先しながら、創意工夫して多くのことを「中止」するのではなく、形式を変え実現可能にした。さらに、新たな取り組みを実践して経験値を低下させず、目の前の子どもの発育・発達の責任を全うするために努力した一年間だった。

具体例として、①各種消毒の徹底②3歳以上児のマスク着用③密を防ぐ(給食時はパネルを設置・トンクの使い回しをしない・食事間際までマスク着用など)④検温(回数増)⑤送迎時の玄関受け入れ(保護者入室無し)⑥各種イベントの実施時期の変更等々、実施できることは全て行った。

また、職員の健康管理にも十分配慮して、①出勤時検温②体調不良時の申告③家族の体調変化時の休暇④出かけた時の報告等々、遺漏の無いように資した。私たちの行動が子どもへ影響することを全職員が理解して対応した。

※8項目の重点事業を踏まえ、活動状況を以下の数値等で集約して示す。

(運営の理念・重点事業・保育目標等は、しおり参照)

1 質の高い保育内容と保育活動の展開(保育園の現状)

今年度のテーマ「あすなろコリンピック ～^{せい}星・^か花リレー～」一人一人が自分の力を発揮して光り輝き美しく、困難な状況やコロナウイルスに負けない活動を繰り広げた。

「ピンチをチャンスに」出来ないことを嘆くのではなく、今だからできることを増やした。

(1) 月別入所児童数および充足率(定員 60名) 令和4年3月31日

単位:人 / %

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6	60
1・2歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
3歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
4歳以上児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
合計	62	62	62	62	62	62	64	64	64	64	64	64	756
充足率 %	103	103	103	103	103	103	107	107	107	107	107	107	平均 105

(2) 月別保育日数 令和4年3月31日

単位:日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293

(3) グループ別園児数 令和4年3月31日

単位:人

ほーる&へや	ほっとけーきのおへや	ぐりーんほーる		みみずくほーる		ぷりんのおへや		
グループ名	びゅーま	ちーた	しまりす	ばんび	ぼにー	うさぎ	りす	ことり
年齢	5歳	4歳	3歳	2歳	2歳	0・1歳	0歳	0歳
男	5	3	5	3	4	3	1	1
女	10	12	7	3	2	2	2	1
合計	15	15	12	6	6	5	3	2

(4)園児地域別一覧 令和4年3月31日

単位:人

地域	人数	地域	人数	地域	人数	地域	人数	合計 64
1.蓬萊	18	6.伏拝	2	11.大森	1	16.鳥谷野	1	
2.黒岩	10	7.腰浜町	2	12.笹谷	1	17.上鳥渡	1	
3.松川	15	8.栄町	2	13.太平寺	1	18.飯野	1	
4.田沢	2	9.清水町	1	14.御倉町	1			
5.南向台	3	10.方木田	1	15.渡利	1			

蓬萊地区を中心に18の広範囲にわたっている。

〈卒園児15名〉

蓬萊小学校:2名／蓬萊東小学校:4名／松川小学校:3名／杉妻小学校:2名／
笹谷小学校:1名／福島大学附属小学校:1名／郡山ザベリオ学園小学校:1名／
須賀川市立第三小学校:1名

(5)延長保育促進事業

①延長保育 朝(6:55～8:00)

単位:延人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
381	326	396	328	342	368	430	372	404	371	366	369	4,453

②園長保育 夕(19:00～19:30)

単位:延人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
31	20	34	27	22	31	14	32	30	23	22	34	320

11時間の標準保育以外の延長保育利用者数は、園児64名の内、毎朝20名以上、8時半には8割の園児が登園する。0・1歳児は「ぷりんのおへや」、2歳以上児は「みみずくほーる」にて安全に配慮し縦割保育を行い、最終的には年齢別保育へと繋げ、遊びが分断されない活動を展開した。戸外遊びの重要性が話題となっている中、天候と職員配置に留意して状況に応じて9時頃からは戸外活動を実践して十分に身体を動かした。

2 保育環境の整備

“自然との共存”のテーマのもと、戸外活動の充実を目標の一つに掲げ、自園の特徴としている遊び場の「みどりのおへや」を整備している。土手を走る・丸太ステップ・ロープ登りなど全身を動かし体幹を鍛えた。36の運動(基本動作)を意識した、計画的・意図的な活動が出来るような人的環境の保育者の資質向上にも努めた。

室内においては、LED化を進め2年間に分けての工事を実施した。今後も必要に応じた環境整備を実施していく。

3 食育活動を通しての子どもの健康管理推進

子どもの笑顔(命を守る)＝健康で順調な成長(発育)の根幹となる食事に関して、栄養士を中心に個別の離乳食・アレルギー食等の提供と、毎月恒例の「アートクッキー」は、その月のテーマに合わせて自園のオリジナルで好評を得ている。“作って食する実体験”を目指し、農園でジャガイモ・カボチャ・トマト等を栽培して、その野菜を活用したクッキング保育を取り入れ、お泊り保育の際も収穫して目の前で焼いて食するバーベキュー活動を実践。このことはとても印象的で“楽しかった活動”にあがった。

4 子育て支援拠点事業を通しての地域児童の「幸福の希求」(どんぐりひろば)

(1)総括

「コロナ禍」で、園児の保護者が入室しない状況の中で、不特定の親子が園内に入室することに不安感はあるが、単独もり状態の子育て中の親子のため、包括的な支援(ソーシャルワークの役割)が明示された。今まで以上に子育ての支援や地域の皆様が利用しやすい活動の一環として、専門の指導者を招聘して出前支援「リトミック」を実施した。未入園児の親子に、「どんぐりひろば」を利用していただき「全ての人が、子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現を目指して」のテーマのもと、園長・副園長・支援事業・学童担当者を中心に子育ての負担感を軽減する一助を担った。

(2)事業の内容

①子育て親子の交流の場(どんぐりクラブ)

園庭や支援センター“おむらいすのおへや”開放(どんぐりひろば)・担当者のカリキュラムでの活動。

②育児講演会・講習会(どんぐりやまセミナー)

園の職員(社会的資源)の個性を活かしたバラエティに富んだ講座を提供した。

③子育て相談(電話・面接) 相談内容はかなり複雑化している。

④出前支援 専門の指導者を招聘して「リトミック」を実施し好評を得ている。

5 一時預かり事業(ちょうちょクラブ)

単位:延人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14	11	10	15	31	8	11	5	11	16	2	32	166

保育園に入園できない待機児の、0・1歳児の一時預かり利用希望者が多い。しかし人手不足のため、利用不可能な状況であることや、コロナ禍の影響で利用者数は半減した。

6 放課後児童健全育成事業(とんぼ学童クラブ)

単位:延人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
953	828	978	906	789	868	899	824	860	734	700	775	10,114

個別対応の児童が多く、日々丁寧に関わっている。担当職員だけではなく園担当職員もサポートに行くなどの負担を課している。学校との連携も重要になり、低学年担当教諭を中心に問題傾向の内容を話し合った。前年度の1.4倍と利用者数が増加した。

7 家庭・地域・保育園が力を合わせてのネットワーク作り

月2回以上の園便り「あすなろっこ」と、支援センター便り「どんぐりひろば」を発行して地域に情報を発信した。地域の小中学校とも連携を深めるために、同様に「とんぼニュース」を学校宛に配布した。

また、養成校の依頼を受入れ、実習及び就職セミナー等、未来の専門職の育成にも寄与した。

8 インターネットのホームページによる情報の公開

毎月10日頃を目安に更新して最新の情報を提供した(アクセス数は現在28,255回/昨年度27,166回)。